

## 「Global NaaS Event」において 「NaaS Accelerator Live Best of Show」を受賞

ドコモグループの法人事業ブランド「ドコモビジネス」を展開するNTTコミュニケーションズ株式会社(以下 NTT Com)は、2024年10月29日(米国時間)に米国のネットワーク技術標準化団体MEF(Metro Ethernet Forum)が主催する「Global NaaS Event」(以下 本イベント)において「NaaS Accelerator Live Best of Show」を受賞しました。



### 1. 受賞した賞について

MEFは2001年に設立され、世界各国の通信事業者をはじめとする220社以上が加盟する権威ある標準化団体です。本イベントでは、サービスプロバイダー、技術ベンダー、企業ユーザー、クラウドプロバイダーが集まり、NaaS(Network-as-a-Service)<sup>※1</sup>のエコシステムや標準化、オートメーション、サイバーセキュリティといった最新トピックについて議論します。

「NaaS Accelerator Live Best of Show」は、「NaaS Accelerator Program」に参加しているチームの中から、革新的な取り組みを行なった優秀なチームに送られる賞です。

### 2. 受賞した取り組みの概要

NTT Com は、パートナーである TATA Communications Ltd.、Amartus Ltd.と共同で NaaS 利用ユーザーの更なる拡大を見据え、LLM<sup>※2</sup>をベースとした生成 AI をネットワーク分野に適用させることによる有用性を以下 2 つの観点にて実証しました。

#### (1) 構築時の観点

NaaS の構築時にユーザーは、ネットワークに関する専門知識が求められます。そこで LLM を利用することで、対話形式にてネットワークの自動構築(プロビジョニング)が可能であることを確認しました。これにより、高い専門知識を利用せずに NaaS におけるネットワークの構築ができることを示しました。

#### (2) 運用時の観点

一般的にネットワーク環境で発生したエラーを特定するためには専門知識や経験が多く求められます。一方で、NaaS の利用においては環境のトラブルシューティングもユーザー自身で行う必要があります。そこで LLM や RAG(Retrieval-Augmented Generation)<sup>※3</sup>をネットワーク環境のトラブルシューティングへ活用することで、エラー原因の特定へ有用であることを確認しネットワークの運用コストを大幅に削減可能であることを示しました。

### 3.今後の展開

NTT Com は、引き続き有用性検証をおこない、NaaS (Network as a Service) における、自然言語によるネットワークの自動構築やトラブルシューティングのサポート機能に加え、ネットワーク環境の最適化や設計の自動化などをめざします。

---

NTT ドコモ、NTT Com、NTT コムウェアは、ドコモグループの法人事業を統合し、法人事業ブランド「ドコモビジネス」を展開しています。「モバイル・クラウドファースト」で社会・産業にイノベーションを起こし、すべての法人のお客さま・パートナーと「あなたと世界を変えていく。」に挑戦します。



[https://www.ntt.com/business/lp/docomobusiness/db2024\\_sol.html](https://www.ntt.com/business/lp/docomobusiness/db2024_sol.html)

※1 : NaaS(Network-as-a-Service)とは、ネットワーキングサービスの 1 つで、クラウド上で管理したネットワーク環境と、それに関連するサービスをワンストップで提供するソリューションのことです。

※2 : LLM とは、Large Language Model (大規模言語モデル) の略であり、膨大なデータを学習して自然言語処理を行う AI モデルを指します。

※3 : RAG(Retrieval-Augmented Generation)とは、大規模言語モデルに外部のデータベースや情報ソースを組み合わせて、より正確で情報に基づいた回答を生成する AI 技術です。